

ニーズ・シーズマッチング

交流会 2022

使う人と作る人の交流会

みんなで考えよう!

入退場自由
入場無料



ニーズ・シーズマッチング交流会とは?

障害当事者の思いや要望をよりの確にとらえた支援機器の開発に繋げるため、支援機器の障害当事者(ニーズ側)と支援機器の開発者(シーズ側)が自由に意見交換を行う場です。

Web開催

令和4年10月1日(土)~令和5年1月31日(火)

テクノエイド協会Web交流プラットフォーム内

出展者
83社

大阪会場

令和4年11月28日(月)・29日(火)・30日(水)

開催時刻:初日13:00-17:00 / 9:00-17:00 (最終日のみ16:00)
OMM

出展者
50社

東京会場

令和4年12月14日(水)・15日(木)・16日(金)

開催時刻:初日13:00-17:00 / 9:00-17:00 (最終日のみ16:00)
東京都立産業貿易センター浜松町館

出展者
62社

Web開催イベント内容

オンラインで出展者や障害当事者の全国組織、開発支援機関等と交流が行えます。
また、最新の調査研究報告等の視聴ができます。
(無料・事前登録不要)

大阪・東京会場イベント内容

会場では開発改良中の機器展示、機器を体験しながら出展者と意見交換が行えます。また、会場から基調講演、特別講演、基調報告等の講演を見ることができます。
(無料・入退場自由)

過去の
交流会の様子



対象者

ニーズ側 障害者、家族、在宅・施設等の介護職員、医療・福祉従事者等

シーズ側 開発メーカー、産業振興団体、行政、新規参入を検討する企業・研究者、大学関係者、研究機関等



基調講演 & 特別講演

入場無料

会場での聴講、オンラインによるリアルタイム配信 (入場無料)

2回講演 11月28日(大阪)・12月14日(東京)

大阪
会場

令和4年11月28日
13時30分より

- 会場で聴講 → OMM (2階展示Aホール)
- オンラインによる視聴

→ <https://us06web.zoom.us/j/83295180896?pwd=dyttMmRoQWWhoY0l0cXVuMndHRIUT09>



東京
会場

令和4年12月14日
13時30分より

- 会場で聴講 → 東京都立産業貿易センター
浜松町館 (2階展示室)
- オンラインによる視聴

→ <https://us06web.zoom.us/j/81419433146?pwd=clF2eXM0NXpndVYzekE0kzNicUk1dz09>



基調講演

13:30~14:30

支援機器の可能性と開発にあたって ～アクセシビリティとは?～

東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究部 准教授 高尾洋之
「アクセシビリティ」という考え方のない価値観だと、人々の様々な障害は「不便であり不幸」です。一見この2つの言葉は不可分で正しいかのように思えます。しかし私自身も病気を患って実感しましたが、そんなことは決してありません。不便であることが解消できないと勝手に思い込み、当事者も周囲の人も諦める、あるいは諦めさせることが不幸を生んでいるのです。

障害者、健常者関係なく全ての人々が、不便であることを不幸にせず、マネジメントする方法を考える。これがアクセシビリティの基本だと考えています。



2015年4月より東京慈恵会医科大学脳神経外科および先端医療情報技術研究部を兼務、准教授。

同大学のICT推進プロジェクトリーダーになる。臨床において脳血管障害と網膜芽細胞腫の希少疾患治療などに取り組む一方、ICT医療の推進による臨床効果・医療経済効果などを研究。2018年8月14日にギラン・バレー症候群に罹患し障害者となり、現在リハビリ回復中であるが、いろいろなデジタル機器によるアクセシビリティ技術を使って仕事をしている。

厚生労働省と内閣官房での経験もあり、大学でもICTの講座を任せられ、東京都医師会のデジタル委員にも引き続き従事。障害者になってもアクセシビリティ技術を活用してICTの様々な方面の経験を積んでいる。

特別講演

15:00~16:00

歩けない私と支援機器

一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟 常任理事 花岡伸和

17歳で脊髄損傷により歩けなくなった私は、車いすマラソンと出会い、スポーツを手段として人生を切り開いてきました。それは特別な事ではなく、生きるために支援機器を使う日常生活の延長線上に「動作の精度を高める」ための身体と機器のマッチングを重ねる事だったのです。

支援機器はできないことを補う単なる道具でなく、人生を豊かにするパートナーであると考えます。



1976年3月13日 大阪府富田林市生まれ
1993年11月3日 バイク事故により脊髄を損傷、車いす生活スタート
1995年4月 車いすマラソンを始める
1999年1月 フェスビックバンコク大会出場
5000m銅メダル獲得
マラソン日本最高記録、トラック1500m日本記録樹立(当時)
2003年 アテネパラリンピック出場
マラソン6位入賞
2004年9月 アジアパラゲームス広州大会出場
1500m銅メダル獲得
2010年12月 ロンドンパラリンピック出場
マラソン5位入賞
2012年 陸上競技を引退
2013年 パラサイクリング競技(自転車競技)に転向
2015年6月 パラサイクリング日本選手権大会優勝
2017年3月 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程(コーチング領域)修了
2019年11月 世界選手権大会テレビ中継解説
2021年8月 東京パラリンピックテレビ中継解説

大阪会場

OMM (2階展示Aホール)



< 公共交通機関のご案内 >

- Osaka Metro谷町線「天満橋」駅北改札口
- 京阪電車「天満橋」駅東改札口
⇒ OMM地下2階に連絡(改札を出るとすぐに案内表示があります)

< 駐車場のご案内 >

第一及び第二駐車場があります。なお、割引券の配布は行いませんのでご了承ください。

東京会場

東京都立産業貿易センター浜松町館
(2階展示室)



< 公共交通機関のご案内 >

- JR浜松町駅(北口)から徒歩5分
- 東京モノレール 浜松町駅(北口)から徒歩5分
- ゆりかもめ 竹芝駅から徒歩2分
- 都営浅草線 大門駅から徒歩7分
- 都営大江戸線 大門駅から徒歩7分

車いすで来場される方は、ゆりかもめ「竹芝駅」を利用してください。

福祉機器コンテスト2022

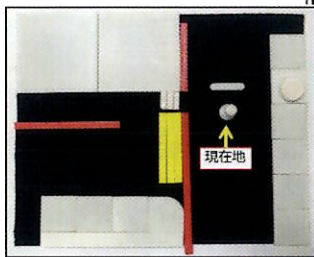
受賞作品紹介



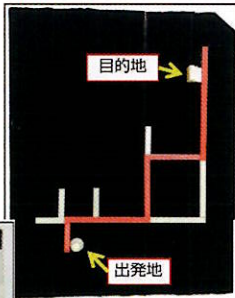
機器開発部門

触地図作成キット

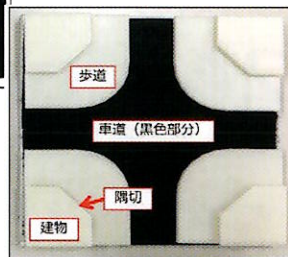
近畿大学 生物理工学部 人間環境デザイン工学科 豊田 航氏



局所地図



ルート地図



概念地図(十字路)

触地図作成キットは約A4サイズの平板の土台に点・線・面状の立体パーツを面ファスナーで固定することで、歩行訓練で有用とされる3種類の形式が異なる触地図を組み立てられます。触地図作成キットを使用して環境説明を受けた視覚障害者は、未知の歩行ルートを一人で定位喪失せずに自信をもって歩けるといった確かな効果が確認されており、実際の歩行訓練の使用でも有効性を示すデータが得られています。従来製法と比べて触地図を低コストで作成でき、訓練現場で即座に作成・修正できる点で競合製品が存在しません。歩行訓練や盲学校等で一定の需要が見込まれ、実用化の可能性が高いものです。



学生部門

アイスポッターデラックス

～棒アイスを持ち易く、服を汚さず、口に運び易くなる自助具～

アール医療福祉専門学校 作業療法学科 江口 直香氏



アイスポッターデラックスは自力で棒アイスを食べることが難しい頸椎損傷や嚥下障害、運動失調などを持つ方のための、「食べたい!」を叶える自助具です。

掴む力が弱い方が把持できるようにすることや溶けたアイスで服を汚さないこと、口に運び動きが苦手な方の動きをスムーズにすることにより、自力で棒アイスを食べやすくすることを目的としました。その結果、指が4本入る取手を備え多様な持ち方ができるようになり、直径約11cmのシリコン漏斗によりアイスが溶けても垂れなくなり、重量調整のため重りを入れられるようになりました。

特徴は分解して洗うことができ衛生的であることや入手し易い材料で構成されており、差込口の形状をお湯で変えられるためあらゆる種類の棒アイスに対応可能なことです。

- 主催** 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会
- 後援** 厚生労働省 経済産業省 公益財団法人テクノエイド協会 公益社団法人日本理学療法士協会
公益社団法人計測自動制御学会 公益社団法人日本生体医工学会 一般社団法人日本義肢装具学会
一般社団法人日本作業療法士協会 一般社団法人日本福祉用具・生活支援用具協会 一般社団法人日本生活支援工学会
一般社団法人日本福祉のまちづくり学会 一般社団法人日本車椅子シーティング協会 バイオメカニズム学会
- 特別協賛** フランスベッド株式会社
- 協賛** 株式会社 有園製作所 株式会社 ケーブ 日本3Dプリンター株式会社



一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

<https://www.resja.or.jp/contest/>

福祉機器コンテスト2022

受賞作品紹介

優秀賞

機器開発部門

TIRIのストロー補助具

(地独) 東京都立産業技術研究センター 酒井 日出子 氏

リユースを意識した子ども用ストロー補助具の開発を行いました。調査結果から抽出されたニーズを基に試作品を製作し、その後ストローで飲むことに対する支援経験のある作業療法士15名に試作品に関するインタビューを実施しました。最終的にストローがくるくる動くのを防ぐ「ストローサポート」、紙コップや市販のカップに持ち手が付けられ、またカップが倒れることを軽減する「カップホルダー」、ストローが口の奥に入り、喉を傷つけるリスクを軽減する「ストップストロー」の3種を開発しました。



HeartyHID24 Mouse

パソボラ こころの♡かけはし・西九州大学 植田 友貴 氏

本作品は、PCやスマートフォンなどのマウス機能を1つのスイッチで操作可能にするICT機器です。接続方法は、PC等にUSBケーブルで接続し、HeartyHID24 Mouse本体に任意の操作スイッチを接続するだけです。

USBで接続するだけで、デバイスの機種やOSを問わず同様の操作が可能で、制度の谷間により必要な支援が受けられない方でも安価に購入可能なワンスイッチで操作可能なマウス入力デバイスとして開発しました。



優秀賞

学生部門

究極のインクルーシブゲーム ~心拍を活用した運動会~

島根大学大学院 自然科学研究科 奥井 大貴 氏

本作品は、スイッチや視線入力の活用が難しい重度重複障害児(者)も遊ぶことができる、心拍を活用したインクルーシブゲームです。

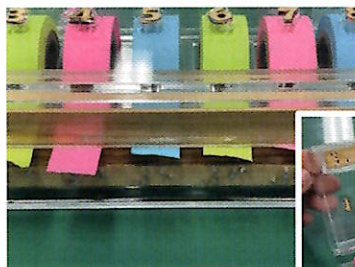
徒競走をモデルにしたもので心拍を感知するセンサーを指先に取り付け、パソコンソフトを起動することで遊べます。操作するキャラクターは心拍に応じて前に進むため、盛り上げる周囲の人達も勝つための一要素となります。そのため、重症児と支援者の関りを促すことができます。



点字ロール

日本大学 生産工学部 創生デザイン学科 小林 芽生 氏

牛乳パックの切込みやエレベーターのボタンの点字など、近年視覚障碍の方の生活をより便利にするための製品が増えています。しかし、牛乳などの食品でいうと、それが何の食べ物なのかがかかって賞味期限や消費期限は視覚障碍の方にはわかりません。また、薬の種類や飲み物の種類など、視覚障碍の方にとって認識しにくいものがまだまだたくさんあります。そこで、わざわざ点字を打ち込んだり介助者の方に聞いたりしなくても、視覚障碍者の方自身で簡単に管理できる製品を考えました。



一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

<https://www.resja.or.jp/contest/>

